

5920



廣司台第六七號

陸軍部第七年四月八日
由羅副第四七號

本林

陸

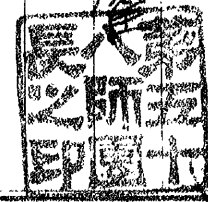


特別報告呈出件報告

昭和十七年四月八日

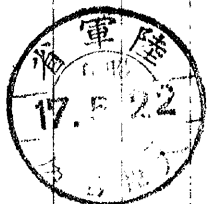
第五十八師團長下野一

陸軍大臣東條英機殿



首題一件別紙通り報告ス

六三七



支那派
遣軍總
司令部
由總副報第九二號

昭和十七年五月拾日

(東京・谷中)

重大ナル軍紀違犯事項報告

一 所屬官等級氏名

獨立歩兵第九十三大隊 豫陸軍少尉

同

豫陸軍伍長

同

同

二 發生年月日

昭和十七年三月二十四日 至 一九三〇年三月二十四日

三 違犯事項ノ概要

昭和十七年三月二十四日、一〇〇所屬中隊日夕
 卓呼ノ際、週番士官 [] 少尉ノ指揮ニ
 於テ戰陣訓奉詔中、[] 伍長ハ隣ニ
 並ブ [] 伍長ニ對シ、囁ヲ交スヤ [] 伍
 長之ニ應シ微笑ス、[] 少尉ハ兩名ニ對
 シ日夕卓呼終了後注意ヲ與フルモ姿

勢態度ニ於テ毫モ悔悟ノ色ナキヲ以テ
 立腹シ [] 伍長ノ左頬ヲ打タントスルヤ
 左手ヲ以テ之ヲ受ケ止メ右手ヲ胸部附
 近ニ持上げ反抗的態度ヲ示セリ、
 同日一九・三〇分頃ヨリ中隊下士官以上ノ會
 食ヲ實施セシガ [] 伍長ハ [] 少尉
 ニ對シテ「解ツタカ」「解ツタカ」ト問ヒツ、不皿ヲ
 差山シタルモ（後刻危害ヲ與ヘントスル暗示
 ノ意味ナラン）間隔遠キヲ以テ花田少尉ハ
 己ノ皿ヲ取り上げ「コレデ乾盃シヨウ」ト促シタ
 ルヲ [] 伍長ハ「卑怯ダ」デ飲メト再ビ己
 ノ皿ヲ差出シ侮辱的言動ヲナシ引續キ
 自己ノ三十年式銃劍ヲ出シ肘ヲ張り小
 鎗ヲ卓上ニ打テ付ケガタヤ、
 鳴ラシ

（納谷 忠 東）

横目ニテ [] 少尉ヲ睥睨ス、續イテ食器
 類、花瓶ヲ投ケ散ラシアルヲ中隊長小城
 中尉ハ目撃シ、 [] 伍長ニ命ジ []
 伍長ヲ同行歸隊セシメタルモ再ビ會食
 場ニ現レ自席ニ於テ飲酒シアル處ヲ上江
 洲中尉ヨリ意味ヲ含メル訓戒ヲ受ケ
 ルヤ中隊長ノ許ニ到リ謝罪シ更ニ隣
 席ノ [] 少尉ニ對シ、
 「ネ小隊長長飲ム
 ト言ヒツ、盃ヲ [] 少尉ニ差出シタル
 モ少尉ハ「モウ充分ダモウ駄目ダ」ト拒
 絶スルヤ「何が飲メナイ、飲メワ」ト暴言
 ヲナシ中隊長ヨリ注意ヲ受ケルヤ「何
 ニ吞ナナコンナ端下酒デ飲メルカ」ト反抗ス

同僚下士官ニ引立ラレ表ニ連行セラレントセ
 シ際 伍長ガ出入口附近ニ於テ倒
 レ掛ケタルヲ中隊長之ヲ引キ立テントシ
 タルヲ目撃セル 伍長ハ中隊長ガ
 認シ 伍長ニ對シ無暴ヲナシアルト誤
 伍長ニ對シ一撃ヲ與ヘ續イテ中隊長
 ノ右臂ヲ後方ヨリ握リ「何事デスカ中隊
 長殿」云マリデス「ト言ヒ「何ヲスルカ邪魔
 スルナ」ト注意ヲ受クルヤ、戦友ノコトナラ死
 シデモヤリマス」ト言フ返ス、
 ニミロ頃 少尉劍舞ヲナサント台上
 ニ上ルヤ 伍長ハ花田少尉ノ後方ヨリ「此
 ノ野郎」ト呼ビ下ラ台上ヨリ突キ落ス、

四 原 因

4 既ニ會食モ終リ近クニナリタル頃、
 ハ歸隊セント出入口ニ於テ縮上靴ヲ穿ケツ
 會場内ノ少尉ニ「貴様」ト放言ス
 ルヲ少尉聞答メ「何」ト向ヒタル處
 伍長モ又「何」ト一歩前進ス、
 少尉ハ憤激シ無意識ノ間軍刀ヲ拔
 キ伍長ヲ斬リ全右ヶ月ヲ要スル刀
 傷ヲ負ハシム

1 少尉ハ下士官ノ不謹慎ナル動作ノ連
 續ニ憤激シタル爲自制心ヲ失ヒタルニ依ル
 2 伍長ハ小年時代ヨリ各所ニ点々
 ト出稼ヲナシ入隊後モ諸部隊ニ轉屬シ其
 ノ間同僚ノ間ニ圓滿ヲ欠キ或ハ上官ニ對シ

反抗的言辭ヲ弄シ再三注意ヲ受ケシ
 カ三月二十四日週番士官
 サレタルニ不滿ヲ抱キタルモノナリ

伍長ハ幼少頃ヨリ家庭的環境ニ
 恵マレス、本人ノ性格短氣ニシテ且酒ヲ
 好ミ兇暴性アリ素行不良ニシテ時々
 常軌ヲ逸セルモノナルガ
 少尉ヨリ殴打サレシニ對シ同情シ少尉
 ニ對シ不滿ヲ抱キタルモノナリ、

五、動機

飲酒ニ起因シ共ニ自制ヲ失ヒシニヨル

六、處置

少尉ハ性質素行善良ニシテ、勲功
 アリ豫テヨリ中隊内務指導ニ銳意專

念シアリテ其ノ情狀酌量ノ余地アルモ犯罪事實明瞭ナルヲ以テ刑法第二〇四條ヲ適用シ第十一軍臨時軍法會議ニ送附ス、

ス
 雖モ上官ヲ尊重シ之ニ服従スル精神ニ欠クル處アルノミナラズ本件ノ如キハ軍紀確立上嚴重處分ノ要ヲ認メ左記ノ如ク適用シ第十一軍臨時軍法會議ニ送附セリ

記

陸軍刑法第七十三條

同

第五十九條

同

第六十二條

同

陸軍刑法第七十三條

同 第五十九條 同

七、責任者ノ處分

重謹慎十日 中隊長陸軍中尉小域義輝。
同席ニアリテ本件ヲ惹起セルハ中隊長トシテ斷固タル決意ト處置トヲ缺キシ結果ナルヲ以テ大隊長ヨリ前記ノ如ク處斷ス、

八、其他必要ナル事項

ハ三名共今般師團編成ノ爲左記他部隊ヨリ轉入セルモノナリ

左記

少尉 第六師團(歩四五)
伍長 第三十三師團(歩八六)

伍長

第百十六師團(歩一三三)

之

少尉

不家庭ノ状態

實父母ト本人ノ三人ニシテ中位ノ生活ヲ營ム

口平素ノ勤務狀況

部下ノ信望厚ク新設中隊ノ融和團結ニ

銳意惠念シアリテ良好ナリ、

ハ前科ノ有無

ナシ

ニ性 格

善良ニシテ熱心ナリ

ホ其ノ他

昭和十三年三月私立拓大商學部拓植科
ヲ卒業後北支新民會中央指導部

ニ入所シ昭和十三年十月休職翌年一月現役
兵トシテ入隊ス、

ふ、
伍長

ニ家庭ノ状態

實父母兄夫婦（子二人）ノ七人暮シニシテ生
活ハ村内中位ニシテ一家圓滿ナリ

口平素ノ勤務状況

素行不良

ハ前科ノ有無

ナシ

ニ性 格

快活、積極ナルモ、粗暴、表裏強ク酒癖

アリ

ホ其ノ他

4. 伍長

小家庭ノ状態

叔父母義兄同妻子及妻女等十一人暮シニ
シテ村内中位以上ノ生活ヲ営ム
口平素ノ勤務狀況

素行不良

ハ前科ノ有無

ナシ

ニ性 格

寡黙勇猛性アリ積極的ナルモ短氣粗
暴ニシテ酒癖アリ

亦其ノ他

高等一年終了後小笠原諸島、北海道近
海方面ニ於テ遠洋漁業ニ従事ス昭和
九年現役兵トシテ入隊ス

軍紀違犯事項報告

一、所屬官等級氏名

獨立歩兵第九十三大隊第五中隊陸軍一等兵

同

同

二、發生年月日

昭和十七年三月二十六日自二時三十分至三時

三、違犯事項ノ概要

當日〇、九〇〇兩名ハ無斷外出シ慰安所ニ
 於テ遊興飲酒シ一八〇〇頃歸隊中ヲ恰モ之
 ヲ搜索中ノ中隊下士官ニ連レ戻サルルヤ自己
 内務班内ニ至リ一等兵ハ下士官ノ制止ニモ
 攔ラズ實包四發ヲ發射シ一等兵ハ實
 包ヲ發射セント暴ルヲ取押ヘラレ日夕
 呼後、兩名ノ者ハ下士官ヨリ就寢ヲ命セラレ

陸軍

タルモ再ビ無斷外出シ慰安所ニ到リタルヲ
所屬中隊下士官ニ發見サレ連レ戻セントセル
ニ對シ反抗暴言ヲ吐キ上官ヲ面前ニ於
テ脅迫侮辱セルモノナリ、

四原 因

ハ兩名共逆境ニ成人シ酒色ヲ好ミ奔放ニ
シテ且飲酒セバ兇暴性ヲ有ス、

■一等兵ハ竊盜罪ニ依ル前科ニ犯サ
及離隊ニ依ル重懲倉七日ノ懲罰ヲ有ス、
今般第三十九師團ヨリ轉屬セルモノナルガ前
部隊ニ於テモ兩名ハ屢々非違行爲ヲナシ
タルコトアリタルモ懲便ニ處置セラレシタメ本
人ノ言動ニ依リ判斷ス規定ノ嚴守、絶對服
從等ニ對スル觀念欠如セルト前記ノ如

(續 谷 恭 東)

キ性癖ニ起因スルモノト思考ス

五 動 機

右原因ヲ有スル兩名ガ飲酒セル結果自制
心ヲ失ヒ大事ヲ惹起セルモノト思考ス、

六 處 置

本犯ハ最モ有害ナル軍紀犯ナルヲ以テ
搜查處分ヲ行ヒ事件ヲ第十一軍軍法
會議ニ送附セリ

七 責任者ノ處分

目下調査中

八 其他必要ナル事項

一 家庭ノ情況

兩名家庭ハ貧困ニシテ一等兵ハ兩親
ヲ有スルノミ
一等兵ハ兩親及兄弟

ニテ有スルモ兄ハ大阪ニテ自動車運轉
手ヲナシ妹ハ神戸ニテ奉公中ナリ

ニ平素ノ勤務狀態

兩名共、勤務成績普通以下ナリ、

三前科ノ有無

一等兵竊盜罪前科二犯、離隊重

懲倉七日、

一等兵、ナシ

別紙第二

陸軍

廣副人甲第六七號「軍紀違犯事項報告」中責任者ノ
處分左記ノ如シ

記

該當者ナシ

人違犯者

一等兵

二等兵ハ共ニ改編ノ爲ニ他師

團ヨリ轉屬セル所謂「シタタカ者」ニテ一等兵ノ如

キハ前科ニ犯ヲ有シ轉屬後日尚淺キ今日幹部ニ

教育指導ノ責ヲ問フハ酷ナリ、

之事件當時ニ居合セタル下士官ノ動作稍乱暴ナル傾

向アルガ如ク見エルモ酒氣ニ乘ジ狼籍スル違犯者ヲ制

御スル爲ニハ止ムヲ得ザリシ實情ニ在リタリ

(署名 東京)